

府中第五中学校の学校教育目標

校訓「自己発見」

- 深く考え、志高く生きる人になる
- 自他を敬愛し、心豊かな人になる
- 健やかで、社会に貢献できる人になる

○ 深く考え、志高く生きる人になる・・・【知】

「深く考え・・・」というこの目標は、本校における「学び」の姿勢を示すものです。

学校教育法に示された学校教育で育成する三つの学力の要素を踏まえて、学校には生徒に確かな学力を身に付けさせていくことが求められています。生徒が学校で経験する「学び」には、「新しい価値との出会い」「多様な知識の理解」「技能の習得とその活用」「知識や技能を活用した課題解決」「課題の発見とその追究」などがあります。そのような学びを通して身に付けた力を、生活や社会のなかで真に生きて働く「知恵」として正しく活用していくためには、自己のなかでじっくりと熟成させていく「思考のプロセス」が重要となります。深く考える態度は、真の学びを求めて、習得した知識や技能を「自己発見」に結びつけながら深め、求め続ける学習者の姿勢を示すものです。

「志高く生きる人になる」・・・身に付けた学力がより高い価値を求める夢となり、その夢を実現しようとする決意が行動や態度となった時に、それは「志」となります。何のために学ぶのか、その意味と答えを見出す「自己発見」の過程としての「学び」がそこにあります。本校は、常に「自分らしさ」を求めて目標を掲げ、「自己発見」の精神をもって学び、考え続ける姿勢をもった志の高い生徒の育成を目指します。

○ 自他を敬愛し、心豊かな人になる・・・【徳】

「自他を敬愛し・・・」というこの目標は、人としての「心」のあり方を示すものです。

自己と他者との関係は、人間の成長過程における大きな課題であり、社会性をはぐくむ基盤ともなるものです。自分の存在や価値を肯定的に受け止めることができなければ、他者のよさを認めることもできません。自他を敬愛する心は、自らをふり返り、冷静に見つめる態度をもちながら、他者の喜びや悲しみを共感的に受け止め、異なる思いや意見を尊重する態度を養うことではぐくまれていきます。そこにあるのは、人とのかかわりを通して自らの価値を確かめていく「自己発見」の精神であり、それを基盤として思いやりの心をもった豊かな道徳性は養われていきます。

「心豊かな人になる」・・・人とのかかわりは、時に支え合い、時に切磋琢磨しながら生きることを意味を明確にしていきます。常に人はより高い価値を求めることで進歩、発展し、豊かさを獲得してきました。自然に対する畏敬の念や芸術や文化を尊重する心情、崇高なものへの価値を認め、希求していく態度などをはぐくむことは、人が豊かに生きていくために不可欠な要素です。それこそが高次の自己の確立を目指す「自己発見」であり、本校では、思いと行動の調和がとれた心豊かな生徒の育成を目指します。

○ 健やかで、社会に貢献できる人になる・・・【体】

「健やかで・・・」というこの目標は、人の「行動」の基本を示すものです。

人が事を為す時の基盤となり、生きる力の源となるのが心身の健康です。心と体が著しく発達する中学校の3年間は、将来の夢を実現していくための体力や自らの行動を律し、方向付けていく精神力を高めて、自ら伸びようとする「向上心」をはぐくむ時でもあります。心身の健康は、自己を磨き、鍛え、高めて可能性を開花させていく、まさに「自己発見」の精神そのものを支える基盤であり、よりよい自己を目指して努力する源となるものです。

「社会に貢献する人になる」・・・学校で学んだ知識や技能は、自己の夢の実現や社会の中で役立てることではじめて生きたものとなります。高度情報化や国際化の更なる進展が予想されるこれからの社会で求められるのは、柔軟な発想力や創造性、主体的な行動力や課題解決力などです。本校は、社会の中で生きて働くそのような力の基礎を身に付けるとともに、社会への参画を通して、自信をもって自己の力を発揮し、貢献していく態度をはぐくみながら、生徒一人一人の確かな自己実現の支援に努めます。